

■全国まちづくり事例 (参考にしたい事例集)

		キーワード	事例番号
1 交通改善	A ユニバーサルデザイン	小道の整備	1-1
		会所場	1-1
		人と車の共存	1-2
		水と緑	1-3
		歩いて暮らせるまち	1-4
		デザインコンペ	1-4
	B 交通環境	ユニバーサルデザイン	1-5
		トランジットモール(歩行者天国)	1-6
		駐車場・トイレ・休憩所整備	1-7
		無料バス	1-8
		公共交通の一元化と委託制度	1-9
	C オープンスペース	交通ネットワークの見直し	1-10
ウォーキングトレイル(遊歩道)		1-11	
2 景観・資源	A 景観形成	ウエルネスプラザ	1-12
		観光資源	2-1
		地域力	2-2
		黒堀一枚千円運動	2-3
		歩行者優先	2-4
		私有空間の提供	2-4
		オープンガーデン・軒下駐車場	2-4
		絵になる風景マップ	2-5
		シンボルツリー	2-6
		美しいまちづくり楽しいまちづくり	2-7
		クオリティー(品のある町)	2-7
		ガーデニング	2-7
		住民発意によるまち	2-8
		緑地ネットワーク	2-8
	B 地域資源	井戸水	2-9
		ゆっくりゆったり	2-10
		高齢者と子供	2-11. 15
		都市部と農村部	2-12
		森林	2-13
		団塊世代	2-14
		住民の要望に合わせた店作り	2-16
		住民協働	2-17
		耐震改修	2-18
		リサイクル	2-19
		震災疎開ネットワーク	2-19
		川	2-20
		門前町	2-21
地場産業協働による商品開発	2-22		
地産地消100人ショップ	2-23		
既存ストック(空家)	2-24		
本物体験	2-25		
リバーツーリズム(川遊び)	2-26		
3 持続的	A 連携	大型店との協力	3-1
		住民と商店街	3-2
		複数の取組	3-3
		多世代交流	3-4
		他地域との連携	3-5
		街なか居住	3-6・8・9
	B 活用	空き店舗	3-7・9・10
		音楽	3-11
		アート(芸術)	3-12
	C 仕掛	交流拠点整備	3-13
		ハード整備とソフト整備	3-14
		利用者支援	3-15
		子育て支援	3-16
		観光大学	3-17
	D その他	ルールの運用	3-18

■ 全国まちづくり事例集

キーワード	中心市街地活性化 街なか居住 ユニバーサルデザイン 公園、広場 街なみ、住宅	目標	1. 交通環境の改善による賑わいづくり
-------	--	----	---------------------

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
ユニバーサルデザイン	1	八戸中心市街地まちなか巡りと会所場づくりによる活性化プロジェクト	青森県 八戸市	244千人	賑わいの核を線的・面的に発展させるため、八戸中心市街地特有の <small>小路や建物内通路を結んだ</small> まちなか巡りルートを開拓し、併せて低未利用地や空き店舗等を活用し、地元の内発的活動が主導する交流と賑わいの核を現代の「会所場」として復活させ、その空間と仕組みづくりを進めるプロジェクト	駅前広場を中心とした小道ネットワーク地図作りと立ち寄り拠点整備
	2	「人にやさしく、自転車も使いやすく、そのために車にちょっと我慢してもらおう」社会実験	東京都 国立市	70千人	国立において、歩行者と自転車、車がバランスよく共存する「みち」「まち」を築くことは、まちの活性化の重要課題である。歩いて楽しい道も多く、特に桜で名高い大学通りは、公園の要素を持ち、市民が守りつづけてきた財産である。その大学通りで、まちの安全と活性化を図る2つの社会実験を実施する。	駅周辺の道を市民の生活のために利用できるよう、人と車の分離利用を導入するための社会実験を行なう。
	3	パークシステムによる水と緑からの都市再生	岐阜県 各務原市	144千人	課題:中心市街地の空洞化、スプロールによる自然環境の荒廃という20世紀の負の遺産を解消し、21世紀型の新しい社会資本整備の手法を創り出す。その柱を次の3点とする 1. パークシステムの創出により、中心市街地を水と緑により再生する 2. 人間のための新しい交通システムをつくりだす 3. 歩くことが楽しい、美しい回廊をつくる	水と緑からの都市再生。大月市の魅力づくりを水と緑に集約し、歩く事が楽しい街並み整備を行なう。
	4	歩いて暮らせる楽しいまちづくりプロジェクト - 大学と地域の連携による中心市街地の再生に向けて -	大阪府 茨木市	267千人	「歩いて暮らせるまち」を実現していくことが、沿道の商業施設利用を促進する「楽しいまち」の実現に繋がるとの考えから、大阪大学の学生による、歩道空間等における賑わい演出及びまちなみ景観演出についての、デザインコンペを実施し、地元の多様な関係者の集まる場で意見交換を行った。それにより、各提案がより具体的になるとともに、地元関係者の意識啓発にも繋がったと考えている。	歩いて暮らせるまちは、大月市にとっても重要なまちづくりのコンセプトとして活用できる。
	5	長崎市三和地区まちづくり計画策定	長崎県 長崎市	455千人	当地域では住民が独力で積極的なまちづくり活動を行っており、川の清掃活動や環境学習、桜の植樹や花壇の手入れ、バス停の待合所建設等の実績がある。平成16年度から行われている長崎県公共事業デザイン評価制度の案件である都市計画道路栄上為石線の道路整備事業における住民参加をきっかけとして、これまでの個別に行われてきたまちづくり活動を統合し、住民主体の活動の拡大を図るため「わんさかさんわ」の組織づくりをすすめている。「わんさかさんわ」では、当地域の課題である人口減少、少子高齢化への対応策として、ユニバーサルデザイン・住みやすく安全なまち・豊かな自然を感じられるまち、を軸にまちづくりを行う。	ユニバーサルデザイン・住みやすく安全なまち・豊かな自然を感じられるまち、を軸にまちづくりを行う。大月のまちづくりのテーマとも重なる。
	6	西那須野町の駅前活性化プラン	栃木県 那須塩原市	115千人	「歩いて生活を楽しめる町にしなすの」をテーマに「中心市街地を使いこなす」「人が集まるシステムづくり」「すべての人にやさしい」を目標として、民活導入の可能性調査、ワークショップによる地域住民の合意形成、トランジットモールやコミュニティバスの導入実験、まちの顔づくりとして、町民の意見を集約した景観づくり、駅周辺整備モデルづくり等を行い中心市街地の活性化を行う。	「歩いて生活を楽しめる町」をテーマとした町づくり。大月の小道を活用したまちづくり。進入禁止時間帯を設定、社会実験を行なう。

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
交通環境の改善	7	ウェルカムステーション実証実験	北海道 札幌市	1,880千人	札幌は魅力的な観光施設が郊外エリアに点在しており、それらを周遊して楽しんでもらう仕掛けやサービスが弱いことから「ウェルカムステーション」を周辺観光施設と結びつけることで、エリア観光を楽しんでもらうための拠点としても位置付け、その機能を検証した。「ウェルカムステーション」は、無料の駐車場・トイレ・休憩所及び有人の観光案内窓口を持つ施設である。	点在する観光地にウェルカムステーションとして駐車場を整備、案内所の機能も併設、ネットワーク化させる。マップやネットによる車利用者に対する情報の発信。
	8	無料化による路線バス利用実証実験及び交通動態調査	埼玉県 熊谷市	204千人	中心市街地の活性化を図るため、熊谷市中心市街地活性化基本計画に位置付けられた「にぎわいのバスサタデー号運行事業」を基に、「全国都市再生モデル調査」を活用し、11月3日と12月20日について、路線バスを終日無料化して住民に提供、その利用状況を検証した。	公共交通機関の利用を促し、中心市街地への誘客を図る。現在実施されているおでかけバスの再検討。
	9	「都市の活性化を図るための市内公共交通システム構築」調査	新潟県 南魚沼市	63千人	路線重複と空白地帯の解消、スクールバスの路線バス化による多様な活用、ワンコイン化、バス経費の総額抑制(デマンドバス化、隔日運行、指定日運行等)、直営バスから委託化への検討等を総合的に行い、効率的な交通ネットワークを確立	路線バス。スクールバス、幼稚園バス等の公共交通を一元化し、効率化を図るとともに駅を中心としたネットワークを形成する。
	10	くるくるおでかけネットワークプロジェクト	兵庫県 神戸市	1520千人	1. NPO主導による運行実施調査 2. NPO・住民・地域民間事業者・運送事業者・市交通局・行政の協働 3. 単なる個別運輸手段の開発ではなく病院・商業施設等の地域民間事業者や自治会等のサポート体制を調査し、既存の市バス、コミュニティバス、自転車の連携が取れた交通ネットワークの開発モデル作成	大月市の交通ネットワークを見直し、中心部と周辺部との交流を強化する。
	11	ウォーキング・トレイル 社会実験	宮城県 松島町	16千人	松島町では、JR仙石線松島海岸駅周辺に瑞巖寺、五大堂、水族館等の重要な観光地が存在するため、1年を通し観光客で賑わっている状況である。現在、松島を訪れる観光客は、JR仙石線松島海岸駅を拠点として観光している状況となっており、松島海岸駅周辺では歩行者が多くなっている。しかしながら、町内の主要幹線道路である国道45号は、交通量も多く歩道も狭いことから、観光客が危険にさらされている状況であり、松島町では、松島海岸付近のJR仙石線高城町駅(松島海岸駅より2.5km)及びJR東北本線松島駅(松島海岸駅より2.0km)を活用した歩行者観光周遊ルートの整備を計画している。	大月市の町なか小道と猿橋や岩殿山を結ぶウォーキング・トレイルの整備。最近の健康志向を受け、ウォーキングを楽しむ人は年々増えている。このトレイルと商店街を結び中心市街地の活性化に結び付ける。
オープンスペース	12	“ウエルネス”を基盤とする100万人交流シンボルエリア整備促進調査	山形県 最上町	11千人	両地点を結ぶ交通アクセスが劣悪な環境であることに加え、中心市街地の核であるべき商店街に旧来の賑わいがなくなり、空き店舗や空き地などが目立ってきたなどの現状にある。こうした現状認識により、「ウエルネスプラザ」が保持する“より積極的な健康づくり”機能をエリア全域に浸透させるための調査活動や実験活動が急がれる。	ウエルネスパークとまちなか商店街の連携を図り、公園で遊んだ後に町に立ち寄ってもらえるような仕組みを作る。
		1. まちのコンシェルジュ事業	山梨県大月市	30千人	「まちのコンシェルジュ」とは、大月への来訪者や地域住民に大月を案内する人。大月駅前広場に配置、大月駅利用者に対して、大月の魅力を伝えとともに、まちや周辺観光地等の案内、商店街の紹介、公共施設の案内等を行なう。合わせて広場の円滑利用をサポートする。	
		2. 駅広コンサート事業	山梨県大月市	30千人	学生や音楽愛好者に駅広の一部を開放、音楽を核としたまちづくりを行なう。この中から地域のイベントを育てる。	
		3. 駅広朝市・夕市事業	山梨県大月市	30千人	駅前広場の一角を朝市・夕市広場と設定、市民に開放し、市民の憩いの場を作る。	
	4. 駅広移動店舗活用事業	山梨県大月市	30千人	駅前広場の一角を移動式店舗に開放、定期的に商店街にはない商品の販売等を行ない利用者に新しいサービスを提供する。		

■ 全国まちづくり事例集

キーワード	中心市街地活性化 街なか居住 ユニバーサルデザイン 公園、広場 街なみ、住宅	目標	2景観形成・地域資源による賑わいづくり
-------	--	----	---------------------

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
景観形成	1	「歴史と文化を感じさせる街並み景観形成」調査	山梨県 甲府市	201千人	甲府駅周辺新都市拠点整備事業は、甲府駅周辺土地区画整理事業及び甲府駅周辺拠点形成事業の2本の柱で事業を行っており、土地区画整理事業で基盤整備を行い、拠点形成(国土交通省の補助メニューでは、まちづくり総合支援事業)事業では、駅前広場、多目的広場、歴史公園の整備を行い、まちの賑わいを創出するため、山梨県で整備を行っている、舞鶴城公園と一体的な整備を行うことにより、歴史的な景観を維持保全しつつ、甲府五山等の観光資源への遊歩道の整備を進めて、観光客の中心部へ誘導し、中心部の活性化を図る。	山梨県内の事例1 JR甲府駅周辺の整備事業。 駅周辺は舞鶴城との一体整備、甲府五山への遊歩道の整備を行なっている。
	2	「ふるさと資産」(書・和紙・花火・水路網等)を生かしたまちづくり推進調査	山梨県 市川三郷町	18千人	市川地区中央部は江戸時代から続く歴史的市街地である。今日、木造密集・道路不備や、人口減少・建て替え困難など問題に直面し、行政と住民の協力連携による市街地整備の取り組みを始めたところである。道路や建物改善に並行してそれを支える社会的活力が重要である。この観点から、今日にも残されている伝統的な紙・書の産業文化、産業を支えた網の目の水路、昔栄えた本通りの通空間など「ふるさと資産」を生かした、まちを元気づける活動を展開し、小さなまちの地域力の向上を図る。	山梨県内の事例2 歴史的町並みをいかに保存・活用していくか、地場産業を取り込みながらまちづくりを展開している。
	3	地域資源を活用した景観街づくり方策検討調査	新潟県 村上市	30千人	村上市は城下町であり、町屋などの歴史的資源が数多く残っている。しかしそれは十分に活かされておらず、商店街が衰退していた。そのような中、住民の手により、町屋内部の公開を主体とした「町屋の人形さま巡り」「町屋の屏風まつり」が開催され、町に活気がよみがえってきた。 <取り組み>このような状況の中、城下町らしい景観を再生させようという機運が高まり「黒塀プロジェクト」が開始された。これは黒塀一枚千円運動で基金を募り、住民の手でブロック塀に一枚一枚板を張り付け、景観を再生させる活動である。平成14年から始まり、4年間で270mの黒塀を再生させていた。この黒塀の取り組みを一層深め広げようと言うのが今回の取り組みである。	民間団体による住民主体の景観形成事業。 黒塀をテーマにした景観作り 観光面での効果を期待。 景観整備はイベントとは違い、永続的な効果がある。 イベント以外の時期の集客効果を期待し展開中。 これ以外に竹灯籠を実施、石畳を研究中。まちなかの共通項を統一していくだけでも景観形成はできる。
	4	栗と北斎と花のまち「おぶせ浪漫空間」の実現に向けて	長野県 小布施町	11千人	1. オープンガーデン、軒下駐車場などの私有空間を公共空間として積極的に提供することにより、来訪者と町民がふれあう機会を設け“おぶせ浪漫空間”を創造する。 2. 上信越自動車道小布施サービスエリアに近接しており、小布施町地区の交通体系にも大きな変化が予想されると共に、上述の課題を抱えるなかで、価値ある「空間」「景観」「環境」の維持・保存の面から自動車交通を静穏化し、歩行者系を優先した環境の質を高めた共存空間の実現を図る。 3. 地域住民と観光客とのふれあいの中からまちづくりを推進する。年間120万人の観光客が訪れている。	散策エリアが国道にて分断されているという悩みを抱えているなか、オープンガーデンや花により魅力を補っている。 観光客用の駐車場対策(軒下駐車場)など、交通環境の整備に苦心している。

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
景観形成	5	「詩情」をテーマにした風景づくりと「スケッチの旅」観光おこしプロジェクト	長野県 小諸市	45千人	1. 「詩情」をテーマにした風景づくりと「 スケッチの旅 」観光おこしプロジェクト 2. 絵になる風景プレート設置、案内マップの作成 3. 「スケッチの旅」のサポートサービスショップを実験的に立ち上げる。 ・新しい観光スタイルの開発/「ニーズ調査」の業者ヒヤリングから、スケッチ、写真、俳句などの趣味のグループの創作旅行のニーズは増大しているが、受け入れ体制を持つ町がないことがわかった。(市民参加のきめ細かなサービス、対応が必要となる)その体制づくりを通して、小諸市民のまちづくり資源と文化に対する認識を高め、ホスピタリティの共有を実現する。	景観ポイント調査を行ない、絵になる風景スポットを観光客に紹介、まちの魅力を活用する。 岩殿山、猿橋。桂川等の自然景観を有する利点を生かしたまちづくり。 自分が住む町の魅力発見にもつながる。
	6	市民による「わがまちのシンボル樹」全市調査	兵庫県 神戸市	1520千人	市の シンボルツリー を増やし、守る計画。これまでの同種の調査は行政や専門家による既知の樹木を整理するトップダウン型調査であった。本提案は、地域住民が地域の樹木を調査することから始めるボトムアップ型調査であり、まちづくりの本義でもある住民の参加が図られている。	緑をまちづくりの中心に据え、中心部でも緑あふれるまちづくりを行なう。都会との差別化、魅力作り。大月市が都会との違いを創出するための方策である。
	7	美しい由布院を持続するソフト策の充実と人づくり	大分県 由布市	35千人	美しい由布院から発信し全国の観光地やリゾートの水準の向上に寄与し、クオリティが高い環境重視の美しいまちづくりを進め、歩いて楽しいまちづくりのためのソフト施策を自立的に持続させ、交流人口の安定化と広域的な都市再生を図る。 ・情報インフラデザインを統合したわかりやすい誘導システムの策定、啓発 ・海外リゾートに比肩する クオリティ を維持するためのトイレメンテナンス実験 ・沿道景観を向上させ循環型社会のモデルとなる半公的空間 ガーデニング ・地域の ビューポイント を発掘し広域的に連携するための情報提供、整備 ・皆が歩いて楽しめる環境づくりのためのクオリティの高いサポート提供	既存ストックの活用だけでなく、案内板や清潔なトイレ、半公開ガーデニング、ビューポイントの整備だけでも美しい町並みは形成できる。
	8	住民発意による緑地ネットワークの整備及び管理の合意形成調査	沖縄県 うるま市	113千人	街路空間や商業拠点等のデザインやそのあり方について住民参加のプロセスを経て緻密な計画が提案された。 例えば、標準配置基準に基づく公園の配置を亜熱帯気候や地域特性によって標準より小規模な公園を分散配置とした。街路や公園、民有地という敷地にとらわれることなく、 緑と健康運動施設 に着目してそれらの機能のネットワークを図っていったということに大きな意味がある。また、植樹帯の植物の維持管理についても念頭に入れた 緑地ネットワーク について、住民参加のもとに検討がなされた。	町の中心部を緑地ネットワークで結び、まちなかに回遊性を持たせ、地域全体での活性化をねらう。 大月市においても駅前だけでなく、他地区との連携を図っていくことが重要である。

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
地域資源	9	中心市街地における井戸水を活用した環境にやさしいまちづくり調査	福島県 須賀川市	80千人	都市再生施策の重点分野におけるアピール点→地下水・雨水の施設整備による震災対策、都市型水害対策の構築→地下水を利用した打ち水、水辺の空間等によるヒートアイランド対策→地下水や植栽による自然との共生等水や緑を活かしたまちづくりの推進→地域の眠っている資源である「地下水」「井戸水」の活用	桂川の水や富士山の地下水をまちづくりの素材として活用、駅前広場に水場や、街角に井戸を作る。
	10	街なみ・川なみ「今様・草加宿」の創出－スローライフの視点からの出発	埼玉県 草加市	236千人	まちづくりの新たな考えとして、道筋・川筋などを「ゆっくり」「ゆったり」「ゆたかに」というスローな視点で、地域に暮らす様々な市民が自ら考え、自らまちを再発見し市民と行政が協働で行うことで、都市再生活動(まちづくり)の方策を導き出す。	スローライフをキーワードにまちづくりを展開している。大月のまちづくりにおいても検討可能。
	11	福祉観光拠点催事と体験ツアープログラム調査事業	富山県 射水市	94千人	新湊くらし応援団と水辺のまち新湊の2NP0による高齢者サロンや託児事業、学童対象の映写会や教室催事など活性化事業が始まったが、どの観光資源をいかすか絞りが切れていない。これらの課題解決に高齢者の介護予防だけでなくいきがいにもなる福祉観光の拠点づくりを図り、名物催事の試行と観光客が楽しめるプログラムづくりをめざして、市民活動の視点でとりくみたい。	地域の食材を利用した高齢者向けの食事の開発・提供や託児事業を商店街や住民と共同研究、賑い作りの仕掛けとする。
	12	都市と農村の連携による集約型都市構造(コンパクトシティ)の構築に向けた総合的な対応方策調査	岐阜県 郡上市	47千人	効率的な地域経営を図り、持続可能な生活圏を形成・維持するため、都市と農村が連携した形で集約型都市構造(コンパクトシティ)を構築に向けて、複数の各拠点間のネットワーク化を図りつつ、住宅、観光、交通、農村保全、土地利用等の具体的な課題に総合的に対応するための方策を調査する。	大月駅商店街と周辺農村部との協働による農林業を中心とした新しいビジネスを構築、まちと周辺部の共存を図る。
	13	多世代交流自然村および雑木林郷再生の実現方法検討調査	愛知県 長久手町	46千人	1. 高齢者がそれぞれに有する能力を役割として生かし、若年世代と共同してコミュニティを形成し、自然環境の保全を図る事例は少ない。(能力のある人のみの参加の例はあるが、各人の能力別に仕事を割り振るような例はない) 2. サポート体制が成立した地域での自立実験である。	大月市の大半は森林。この森林を守り、活用することでまちが賑う。中心部と周辺部との協力関係を作る。
	14	空き家と人材のマッチングによる地域活性化調査	滋賀県 近江八幡市	68千人	大都市住民をはじめとした多くの人が地域での再チャレンジを希望していることや、団塊世代が退職期を迎えることから、地方での生活を希望する優れた人材が今後ますます増えることが予想される。市内に点在する空き家や空き店舗の活用といった課題を抱えており、これらを様々な人材の受入れにより解決	中心市街地活性化の一つとして、新事業立ち上げのシステムを商店街とともに作る。
	15	高齢者の知恵を生かした伊勢の南玄関地域の「交流・継承・体感」事業	三重県 南伊勢町	16千人	相賀浦のお年寄りへのヒアリングを行い、相賀浦の歴史、文化を把握して、相賀浦で伝わっている料理法について、その内容を整理し、相賀浦の「まちづくり資源」としての基礎資料を作成しました。 相賀浦の子供からお年寄り及び来訪者が参加する「おもてなし事業」について、カリキュラムを検討、立案し、サブテーマである「交流・継承・体感」を目的に「おもてなし事業」を実施して、子供達や来訪者には南勢町、相賀浦のすばらしさや深い歴史を体験、理解してもらい、地区のお年寄りには未永く元気に生きるための手立てや役割の方向を体験してもらいました。	地域の眠った伝統・技術・文化を掘り起こし、まちづくりの資源とする取り組みは大月市の「おつけ団子」に見られるが、より広範囲に調査を行ない、高齢者の活躍の場を設ける事はまちづくりにとっても重要な取り組みである。

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
地域資源	16	ぶらくり丁地域活性化プロジェクト事業計画策定調査	和歌山県 和歌山市 (株)ぶらくり	375千人	SCシステムとは、前述した事業者の土地家屋の専有を、所有者の利益を確保しつつ、 所有と営業に分離 させる。営業に関しては店舗を管理運営していく事業体が、土地家屋所有者から店舗を借り上げ、転貸するシステムのことである。商店街とプロデューサー会社との協働作業	空き店舗をすべて調査、再利用法を検討する。住民が求める事業を行ない、活性化につなげる。利用したくなる商店街、店舗構成等のソフト整備が重要となる。
	17	若者いきいきカフェ実験調査事業	鳥取県 倉吉市	52千人	課題解決のための機能を当該地域に加え地域資源を発掘し磨き上げを図るよう、若者(鳥取短期大学の学生)と地域住民((株)赤瓦・あきない中心倉・銀座商店街・倉吉商工会議所、観光ボランティアガイド等)と行政との3者の コラボレーション により、商店街・地域住民・短大生等の活動の拠点、交流の拠点を設置して、新商品開発・アンテナショップ等地域資源の発掘・磨き上げを実験し調査する。 ア. 新たな魅力と賑わいを創出するまちづくりの総称としての「カフェ」 イ. 事業推進のための拠点「赤瓦十号館」の整備 ウ. 学生等が運営する「町屋カフェ和気(わき)」のオープン 平日は卒業生、土日祝日は学生が運営。学生の開発により地産地消をテーマとした軽食・デザート・飲み物を提供しており好評である。また、学生等により定期的なイベント、展示発表等が実施されている。	歴史あるまちの活性化策として、地域の学生を中心としたカフェをオープン、まちづくりの主役として活用
	18	地域コミュニティにおける木造住宅の耐震化の促進方策に関する調査	島根県 松江市	196千人	県が行った地震被害想定調査によると、冬の夕刻に「松江南方地震」が発生した場合においては、死者1,391名、負傷者約1万名、罹災世帯数38,000に及ぶと予想されている。 この想定を現実のものとしないうためには既存木造住宅の耐震化が急務であるが、従来型の行政から所有者個人に対する啓発活動や耐震診断費、改修費の補助の実施だけでは、前述の状況を改善することは困難である。 行政の支援策が効果を発揮するような、新たな枠組みにおける取り組みが求められている。	地震対策を中心に据えたまちづくり。ハード整備中心のまちづくりであるが、防災対策とまちづくりの双方から問題点の解決を行なう。大月市においても重要な課題である。
	19	自然との共生やリサイクルのまちづくりと震災対策を媒介とした地域間ネットワーク	山口県 岩国市	149千人	商店街への集客のため商店提供のサービスチケットが当たるゲーム機能付ペットボトル回収機を設置し、 リサイクル をしながら当たりくじで商店街への集客を図った。 同様の取り組みを進める全国の商店街と連携するとともに商店街が地震で被災した時は復旧までの間、全国の連携する町に疎開できる 震災疎開ネットワーク を構築した。 15年度は、ネットワーク商店街に呼びかけ、由宇温泉への下見ツアーを行い特産品と観光のPRを行った。連携する都会の商店街では近くの川にホタルを飛ばしたいとの思いがある。そこでリサイクル資材を使った浮島に小学生が10年間ホタルを育成したノウハウで浮島の中に生育環境を作り、ホタルを育てて飛ばし、都会の川にもホタルが飛ばせることを実証した。	自然との共生やリサイクルを中心に据えたまちづくりまた、他地域の商店街との被災ネットワークを構築した。テーマはどこにでもある。
	20	川を生かしたまちづくり調査	徳島県 徳島市	257千人	新町川を守る会は、1990年3月に「市民の汚した川は市民の手できれいに再生しよう!」と有志10人で会を発足し、毎月2回ポートで 川の清掃 を始めました。 今では、徳島市のひょうたん島を囲む新町川と助任川の他、田宮川、吉野川の清掃、ひょうたん島周遊船の運航、花植え、植樹活動など、年間を通しての多彩なイベントを行っています。	大月市と言えば桂川と岩殿山、他地域に誇れる観光資源をまちづくりの中心に据え色々な取り組みを通してまちづくりを行なう。

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
地域資源	21	四国霊場第一番札所 門前まち板東商店街 の再生モデル調査	徳島県 鳴門市	63千人	当地区は、1960年代までは阿波一の宮大麻比古神社、四国霊場第一番の門前まちとして賑わっていたが、鳴門市への編入合併やモータリゼーションの進展、隣接町への大型量販店の出店による影響を受け、商店街の衰退が激しく、現状では商店街の機能を失う状況である。 昨年来、現状を打開すべく商店街の再構築を模索し、JR四国板東駅をまちの玄関口とし「おもてなしステーション化」と「発心とふれ合いのまちづくり」をめざしている。 再生モデル調査により 商店街のビジョンと具体的方策を明確 にして活動を加速化させたい。	問題点と具体的方策を明確にしてまちづくりに取り組む事が重要である。
	22	地場産業コラボレーション地域活性化事業	香川県 高松市	417千人	高松が誇る地場産業である石材、盆栽、漆器、うどん、漁業に着目し、この地場産業を核とした新しい観光スタイルを商品化することでどんな効果が生まれるのか。単なる産業紹介だけでなく、その産業を育んだ地域、そしてそこに住む人々をまとめて1つの観光商品として情報を発信する。同時に、夫婦で、カップルで、家族で、団地で地場産業を体験できたり、学習できたり、極めたりすることができるような地域の受け入れ態勢の構築や宿泊産業などの関連企業・団体との関係作りも必要になってきます。	大月市の地場産業を繋いだまちづくりコラボを立ち上げ、展開を図る。まちの特色を表現できる。
	23	山と海と中心市街地を結ぶ資源循環型コラボレーションまちづくり戦略の構築	愛媛県 新居浜市	123千人	市民と、生産者と、商店街の連携で、市民が推薦する生産者の商品を商店街が販売する「100人ショップ」（推薦者と生産者の2つの顔の見える商品）によって、新たな地域特産物の掘り起こしと、商店街の商品ルートの多様化、全国商店街とのネットワーク構築等の、社会実験を行った	地産地消をまちづくりのテーマとして取り上げ展開している。地域内のコミュニティを形成する上では効果的な手法である。
	24	既存ストックを活用した新しい「まち」機能づくり調査	福岡県 行橋市	70千人	行橋駅周辺の中心市街地は、人口減少や高齢化の進行、大規模店の郊外進出等さまざまな要因により空き店舗等の遊休施設が数多く発生しており、その活性化が喫緊の課題となっている。一方、中心街には歴史的建造物や水辺空間などの地域資源があり今回の調査では、この有効利用されていない地域資源や空き店舗等の既存ストックを対象として、地域の創意工夫を活かした活用方策等を検討した。検討にあたっては、住民参加による“まちづくり会議”を開催し、住民のまちづくりに対する意識の醸成に努めた。	魅力があり、利便性のあるまちづくりを行なうためには既存ストックの調査と活用が必要となる。利用者を中心に、何が必要か等を調査し、まちづくりに反映させる事が重要である。
	25	女性や高齢者等の地域住民のパワー（地域力）を活かした地域体験・感動プログラムの開発と受入体制の構築を通じたにぎわいと活力ある街づくり調査	佐賀県 唐津市	131千人	他の地域には絶対に無い究極の本物体験メニューを目指し、唐津の伝統的なまつり『唐津くんち』をテーマとして取り上げ、地元民も知らなかった「うんちく」を掘りだして、ガイドコースとして造成した。モニターツアー時の反応もよく、今後更に磨きをかけて、唐津観光を代表するガイドコースとして販売する予定である。	他の地域には絶対に無い究極の本物体験メニューを目指したまちづくり。他地域との差別化を図る上では重要な取り組み。
	26	子供の川体験から発想するウェルネスシティ支援システム検討	宮崎県 都城市	170千人	・子供を活動の中心に据えて、リバースクールとリバーツーリズムを開催することにより、河川空間に対する日常的な関心が希薄になった親の世代の地域住民に環境保全への理解を深めさせ、地域住民が自ら考え行動して河川を活かしたまちづくりを進めることが出来るようなシステムを構築する活動である。 ・複数のNPO法人の連携により多方面からの提案が可能。	川をまちづくりの中心にした計画。大月においては桂川の活用が考えられる。リバースクール、リバーツーリズムなどが興味深い。

■ 全国まちづくり事例集

キーワード	中心市街地活性化 街なか居住 ユニバーサルデザイン 公園、広場 街なみ、住宅	目標	3. 持続的な賑わいづくり
-------	--	----	---------------

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
連携	1	「朝市」と郊外大型店等との連携による、商店街・地場産業活性化モデル調査	秋田県 五城目町	12千人	中心市街地活性化の有効策として、これまでほとんど活用されていなかった、対立軸にあった郊外大型商業施設等との 協力関係 づくりによる活性化のモデル的チャレンジ	大型店との協力による中心市街地への集客を検討する。
	2	子ども達と高齢者と障がいのある人が育む、芭蕉のまちの中心市街地活性化社会実験	三重県 伊賀市	100千人	エルピスハウス伊賀地域交流センター(民間施設)が核となり、地域の子子ども達や高齢者や障害のある人々との交流を育みながら「 まちなか居住 」のあり方を協議、検討するとともに、旧市街地の空き家の活用や中心市街地内に立地する 大型店との連携 、地域ブランドの検討を進め、協働事業を行うことで、本市の中心市街地の再生の新たな可能性を見つける	地域住民の活動に商店街が積極的に参加することで、地域住民と商店街の接点を作り、賑いを作り出す。
	3	米子・城下町の景観形成と拠点創造による賑わいのあるまちなか再生調査及び実験	鳥取県 米子市	149千人	<ul style="list-style-type: none"> ・米子・下町 賑わいのあるまちなか再生検討会議の開催 ・11/25:「第1回食のみやこ祭in下町」を開催 じげ料理の伝承とまちかど広場、下町PRを目的として実施。約300名以上が参加。 ・2/11:「食のみやこ祭inかどや」を開催 じげ料理の伝承と下町PRを目的として実施。約100名参加。 ・2/16:「城下町米子のえーとこ発見フェスタ」を開催 下町のまちづくり活動の報告及びまちづくり講演会等を実施。約200名参加。 ・3/9:「米子・下町検定」実施 下町の良さを知り、伝え遺してもらおうとこを目的に実施。学生から高齢者まで、市外からの受験者も多数あった。 ・3/30:「第2回食のみやこ祭in下町」を開催 じげ料理の伝承とまちかど広場、下町PRを目的として実施。 ・下町かわら版発行 毎月、地域情報を中心に1300部発行。(A3版両面)市役所、県など関係機関へはPDFデータで配信。 ・空蔵の調査、活用方策の検討 空蔵の現況調査並びに、改修計画等の作成。上記の各イベントに合わせた同時イベント開催による下町及び空蔵のPR活動、ワークショップ、展示会の開催。 ・町屋通り連続性創出実験 町屋通りの店舗を中心にした、下町暖簾回廊計画(のれん、日よけ等)・下町花回廊計画(フラワーポット設置)による町の統一性創出の検討。 	<p>食のみやこ祭in下町・城下町米子のえーとこ発見フェスタ・米子・下町検定・下町かわら版・空蔵の調査・町屋通り連続性創出実験など、多くのイベントを企画、また研究会を行なっている。</p> <p>大月市においても単一の取り組みだけでなく、色々な企画を立て、相互の連携を図りながらまちづくりを進める事により、新しい視点が開けてくるのではないかと。</p>
	4	「高齢者と子どもたち」が主役のまちづくりサテライトキャンパス社会実験	岡山県 新見市	36千人	<p>中心市街地の空洞化が著しい御殿町地域は、大名行列や節句イベントを通じてまちの活力を取り戻す取組を行っているが、高齢化も激しくまちづくりの方向が行き詰まっている。そのため、各まちづくり団体間の連携を図ること、多世代の力を結集したまちづくりを進めること、さらに19年度から特定行政庁になり地域特性に応じたまちづくりの機能を発揮できる新見市行政との連携を強化して、閉塞した現状を打開することが課題である。</p> <p>そこで本調査事業では、地区中心部に総合サテライトキャンパス機能を持つ産官学地域連携の『まちづくり交流拠点・よりどころ』を設け、高齢者の立ち寄り処、子供の居場所、これら多世代の市民の交流の場を創出するまちづくり社会実験調査を行うものである。</p>	『まちづくり交流拠点・よりどころ』を中心に子供から高齢者までの、多世代市民交流の場を設置、まちづくりの方策として展開。大月市においても、市民サロンを商店街に設置し、課題の発見や新規事業の掘り起こしに活用できないか。

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
連携	5	多様な担い手との協働と水平展開による地方都市商店街活性化方策の検討	鹿児島県 鹿児島市宇宿	604千人	宇宿商店街では、商店街と近隣住民が共通のイメージを持つ為に「商店街がさびれるとうなる！」実験として「商店街一斉消灯」を行った。NHKで全国放送され地元では一挙に活性化への認識が高まった。この機をとらえ「町」の中で「まちづくり」の担い手の養成と連携に向けた各種取組を推進したい。 また、小さな「町」の対抗策としては、 他地域との「水平展開」、すなわち同じような「町」単位の様々な担い手とネットワークを結ぶこと である。「エコステーション」や「まちの駅」ネットワークなどの水平展開方策を、前者の「多様な担い手との協働」と結びつけることで、小さな「町」を大きく活性化する方策を検討したい。	同じようなまちとネットワークを結び、小さなまちを大きく活性化する方策を展開中。他地域との連携もまちづくりには重要な要素である。
	6	大学との協働による高齢者のまちなか利用・居住支援の社会実験	山形県 米沢市	93千人	中心市街地の空き店舗(住宅併設)を活用し、できる限り長く 自立した高齢期を過ごす ために必要なパーソナルネットワークづくりを多面的に支援する仕組みづくりに取り組む。商工会議所がプロデューサー役となり、市民と大学(慶應義塾大学・明治大学・県立米沢女子短期大学)が協働して事務局機能と企画運営を担い、行政、地元商店会、社会福祉協議会、企業、団体等の参加・協力を得つつ、多様な活動の「場」を用意する。	高齢者のまちなか利用と居住支援策。高齢者が安心して利用できる環境を整備出来れば町全体の活性化につながる。
活用	7	循環型社会と高齢社会におけるまちなか住宅供給システムの調査	熊本県 玉名市	45千人	古い歴史をもつ熊本県玉名市高瀬地区における既存の木造建築物に、ユニバーサルデザインを導入して 改修し、ケア付住宅として提供 することにより、高齢者を対象とした住宅供給システムを開発し、 定住促進 を図ることが本プロジェクトのテーマである。課題は、 1. 歴史的木造建造物に地域ニーズを盛り込んだ活用案とすること、 2. 権利関係の調整(土地、建物の権利者に対する有効活用に向けた合意形成を図ること)、 3. 九州看護福祉大学の協力によるケアプログラムの確立、 4. 上記1.~3.を一貫したシステムとして構築すること、 5. このシステムにより高齢社会におけるコミュニティの形成や、都市活動のまちなかシフトに寄与すること、 6. ひいては、商店街に新たな需要を喚起して活性化の一助となることの6点である。	既存の空家を高齢者向けケア付き住宅として活用、商店街の活性化につなげる。改造の際に地域の特色を盛り込んだ建築とし、景観形成に活用する。商店街に新たな需要を喚起する。
	8	町並み保存地区における空家を活用した、地元地域学プログラム実施による、新「まちなかコミュニティ」づくり	広島県 竹原市	30千人	瀬戸内海の自然、歴史・文化、教育が連携した、 新まちなか居住の促進 1. 町並み保存地区の空家を、郷土学など地域教育の核として再生 することで、民間企業、学校、住民・地域、行政等が連携し、新旧住民、Uターン者など一人一人が尊重される、新たな集住型コミュニティづくりをめざす。 2. 従来の強制型で地縁・血縁型コミュニティとは異なる、一人一人の自主性に基づく、楽しい「コンパクトな自治」型まちなかコミュニティの形成をめざす。	コミュニティの形成を通してまちづくりを考える。地道であるが重要な取り組みである。地域社会のよさである人と人とのつながりを育てる取り組み。商店街と地域住民とのつながりを再構築する事が重要である。
	9	「青梅」近未来型中核的都市づくり基礎調査	東京都 青梅市	142千人	☆豊かな自然環境の中で 住み・働き・学べ・憩える 中核的都市の実現☆既存ストックを活かしたコンパクトなまちづくり ☆ボランティア団体等の多様な主体がまちづくりに参画できる環境づくり	既設ストックを活用した大月市ならではの整備案を検討する。

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
活用	10	道の駅を核としたフィンランド型福祉のまちづくりモデル検討調査	新潟県 阿賀野市	47千人	阿賀野フィンランド健康福祉プロジェクトの一事業として、田園に囲まれた交通連結地区に新たな「福祉の駅(道の駅及び阿賀野フィンランド健康福祉シティー)」の設置を計画し、1. 関係機関との協議、2. 各種説明会等の開催、3. 先進地の道の駅視察、4. 整備手法勉強会の開催等に取り組んだ。健康福祉シティーは、フィンランドの協力のもと、リハビリを主としたフィンランド型介護予防の概念を導入した最先端の地域密着型のサービス提供施設としての展開が期待される。	商店街の空き店舗を活用、高齢者にやさしい食事の提供、リハビリスクール等、介護予防をまちづくりの基本に設定、元気な高齢者を補助する
	11	大津のひと・まちを音楽で元気にするプロジェクト	滋賀県 大津市	323千人	音楽が持っている力を活かしたまちづくり事業の可能性を探る実験的な取り組みであった。単発的なイベントの開催ではなく、事業を通して人のネットワークが構築され活動の継続となり、その活動の継続が更にひと・まちを元気にしていく・・・という新たなソフトの概念	音楽をまちづくりの中心に据え、まち全体で応援、外部に発信していく。
	12	アートを活用したまちづくりプロジェクト	大阪府	8817千人	・アートを活用したまちづくり多様な価値観を持った人々が互いに交流し活動することは、都市の活力を生み出す源泉である。そこでアート(表現活動)を人と人、人とまちをつなぐコミュニケーションツールとして捉え直し、住民の内的活力の涵養、まちの活性化を図る。 ・公共空間をコミュニケーション空間へ上記活動を公共空間(特に駅、駅前広場等)で実施することにより、コミュニケーション空間として再生を図り、地域の魅力を創造する。	「アート」を人と人とのコミュニケーションツールとして活用し、大月市の魅力作りを行なう。
仕掛	13	観光客100万人の市街地誘導による都市再生施策調査	広島県 庄原市	43千人	国営備北丘陵公園や他の施設などの整備により、十年前は10数万人だった年間入込観光客数は、平成15年に100万人を突破した。しかし市街地の商店街は、郊外の大店の進出や高齢化などにより空き店舗や空き地が目立ち、観光客を受け入れる態勢や市街地に誘導する仕組みもなく経済的な効果も実感できていない。そのため、平成15年度は「全国都市再生モデル調査」を活用し、ワークショップや地元商店主と一緒に各種実験事業やアンケート調査などに取り組み、平成16年度、古い酒蔵を改修し街の風情にあった「笑う・楽しむ・空間(多目的ライブハウス)『楽笑座』」の整備や「市街地誘導マップ」の作成を行っている。	富士山をまじかに控える大月市であるが、まちに集客施設がないため、ほとんどの観光客は大月市を通りこしてしまふ。富士東部地域2500万人の観光客をどの様に取り込むか。地域の特色を反映した観光拠点作り、受け入れ態勢や誘導する仕組み作りが求められる。
	14	都市空間の劇場化の検討	大阪府 堺市	830千人	活性化を行うために、大切なこととして考えたのは「ハードの整備」と「ソフトの構築」であり、そのバランスでした。従来の街づくりでは、ハード整備が先行し、それを十分に活用するソフトの構築が追いつかず、十分な効果が出せないケースが多かったことから「ハード分科会」「ソフト分科会」を設置し、メンバーはどちらの会に出席しても良いという前提で、各々議論を進めていくことにしました。	まちづくりにはソフト整備が重要であり、それに基づいたハード整備を行なうべき。大月市のまちづくりを考える上で重要なテーマである。
	15	ヒト・モノ・ココロを運ぶサービス事業の可能性検証調査	兵庫県 神戸市 岡本商店街振興組合	1520千人	ヒト・モノ・ココロを運ぶサービス事業の実施:上記2つのアンケートから抽出した岡本商店街に求められるサービスのうち「託児」「無料傘貸し出し」「コンシェルジュ」を社会実験として実施し、事業性の検証を行った。お買い物バスについては、当該地区に強い生鮮食品店がないことから、南側の食品スーパー街が集中しているエリアと公共交通機関で結び、個性豊かな個店が集積する当商店街と相互に利用しあえることを狙った。コンシェルジュでは、ベルガールのコスチュームを着用した女性が、区域内での手荷物運び、道案内、まちなか案内、マップ配布、タクシー手配などのサービスを週末限定で提供した。	地域住民が利用しやすい商店街をめざし、商店街が住民向けのサービス事業を実施、公共がサポート。大月市においても検討の余地ありでは。

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	ポイント
仕掛	16	乳幼児期の活き活き公園利活用調査	東京都 世田谷区	841千人	都市化の進行で、子どもが身近な自然や遊具で遊べる野外の場所は校庭や公園など計画された空間に絞られつつある。しかし、さまざまな安全性の問題から、児童向けに設置された市街地の公園でも子どもや親子連れがのびのびと遊ぶことが徐々に難しくなっている。	子育て支援を行なうまちづくり。官民一体となった支援策を検討する。幼児預かり、子供広場などを商店街に設置する。
	17	大洗海の大学を中心としたまちづくり調査	茨城県 大洗町	19千人	大洗町では、海の町「大洗」の再生を目指し、大洗特有の海の文化を更に鮮明にしたまちづくりを展開している。その一つが大洗をまるごと体験できる仕組みとしての「大洗海の大学」である。海の大学は、市民が主役のNPO法人で組織され16年4月に開校している。現在、浜学部、波学部、渚学部など7学部、干物学科や波乗り学科など25学科で構成されている。	まちの各種イベントや観光を大学の学部になぞらえて展開。大月の自然や歴史、産業を体験できる誰でも参加できる大学を作る。
その他	18	市民住民による、中心市街地の使い方や運用等の実地検証	山口県 下松市	53千人	長期間継続してまちづくりを進めているが、市民や地域住民の関心は中心市街地に向かず、街が利用されない現実がある。そこで実際街を使う人々の視点で、街の使い方、運用方法等を、現在の街や通りを使って試行し、自分達がこれから街へどう関わっていけるのかを実地検証する。	NPO法人を活用した継続的なまちづくり。ルールを作っても運用しなければ効果は出ない。その受け皿としてNPOを活用している。大月市でも検討の余地あり。

■ 全国まちづくり事例集

キーワード	中心市街地活性化 街なか居住 ユニバーサルデザイン 公園、広場 街なみ、住宅	目的	注意すべき事例
-------	--	----	---------

分類	NO	事業名	実施地域	人口	実施内容	大月市での取り組み方
参考事例	1	日本大正村の近代の歴史資源を生かした住民主導による持続育成型(回遊滞在)観光地づくり検討調査	岐阜県 恵那市	55千人	岐阜県旧明智町(2004年に恵那市と合併)では、明智駅東地区を中心とした地域で昭和59年より「日本大正村」を宣言し、村長「現在は、司葉子氏」の指導のもと、観光を中心としたまちづくりが行われてきた。開村当時は、多くの来訪者により賑わいを見せ、ピーク時は年間50万人もの観光客を集めたが、近年は減少傾向にあり、17万人程度となっている。「日本大正村」は、市町村合併により恵那市を代表する観光地となったが、周辺地域における観光・レジャー施設の立地に加え、多様化する観光ニーズへの対応の遅れなどから、集客力は低下しており、ここで改めて「日本大正村」が保有する歴史資源を生かしながら、恵那市における最も集客力の高い観光地としての再生を図るとともに「日本大正村」を中心に市内観光・レジャー施設を連携させ、市の観光産業を牽引する役割を担うことが求められる。	ハード整備だけではなかなか観光地にはなれない事例。大月市のまちづくりにおいても注意すべき点である。どのような景観を作るべきか、周囲の自然環境、地域特性、歴史・文化等、バランスよく取り込むことが重要である。
	2	「粋なまち暮らしを楽しもう・まちは大人の文化祭」実現のための実践的調査	福井県 越前市	83千人	「真似したくなるまちづくり(社団法人日本建築士会連合会まちづくり委員会、会長 豊永信博)」と評価され、全国規模のセミナーが開催されるほどである。しかし、人口減少(平成4年8,896人、平成18年6,450人で27.5%減(中心市街地))・高齢化(高齢化率は33.2%(中心市街地))に歯止めが止まらない状況である。	地域住民による地道なまちづくり活動の見本的存在だが、問題点も抱える。大月の今後のまちづくりの参考にしては
	3	青島地域活性化の検討	宮崎県 宮崎市	310千人	現在では衰退が進み、青島海水浴場の入り込み客数は昭和49年の約136万人に対し、平成17年は約18万人に激減した。 ・青島地域の観光に不足しているものは、「体験・感じる」という要素であり、観光客の満足度を高める努力が不足している状況が浮き彫りになった。 ・観光地としてまち全体の活気が出るような仕掛けや体制づくりが求められる。具体的には、地元の企画や調整、PR、受け皿づくり、旅行代理店などとの連携が必要になる。 ・駐車場について、量的には問題ないが、案内がわかりにくいという課題があり、地区全体の駐車場情報を提供する対応が必要になる。 これらの課題を踏まえ、ご当地メニューの開発、キャンドルイトアップイベント、スピリチュアルモーニングツアー、アートイン青島などのソフト的なプロジェクトを実施したところ、観光客には非常に好評であり、地元住民の活気につながった。また、旅行者からの引き合いも出はじめるなど、プロジェクトの継続実施に向けて地域が一体となって動き始めている。	かつての有名観光地も現在では見る影もないほど落ち込んでいる。絶えずまちを活性化させる事をしないと落ちていく典型である。大月市においても活性化に取り組んでいけば道は開ける。